

令和5年11月16日から18日まで韓国プサンで開催された第11回日韓脳卒中学会に、遠井素乃先生、細谷愛先生と3名で参加しました。初日は結構寒く天気も悪かったですが、2日目以後は天候にも恵まれ、プサンの観光をしながら学会に参加しました。今回の一般口演発表の中で細谷先生、遠井先生の発表が優秀演題賞に選ばれ立派な表彰状と記念品を受け取りました。発表タイトルは以下となります。

細谷先生

“Subtle motor impairment is associated with mortality and poor functional outcome independently of cerebral small-vessel disease”

遠井先生

“Microembolic signals of Transcranial Doppler in Acute Stroke with Active Cancer Patients are associated with D-dimer, CRP level, multiple lesions, and mortality at 3 month”でした。

私は一般演題で、

“Small vessel disease burden predicts incident stroke, dementia, death, and functional outcome in independent outpatients with vascular risk factors”を発表し、シンポジウムではアジアの脳卒中診療体制の現況のセッションで座長を務めました。このシンポジウムでは日本と韓国の脳卒中診療状況はほぼ同じですが、ベトナムでは道路に人があふれ車が通れないので救急車が通れないとのことでした。ではどうして脳卒中患者を搬送するのか？ときくと、「バイクに載せて搬送する」という返事で本当かなと思うほど印象的でした。韓国は近いので診療業務を大きく動かすことなく行くことができますし、また韓国の医学研究者は総じて英語が大変上手ですから、国際学会での発表にストレスが少なく参加できます。

機会があればどんどん参加して 海外の人とも交流を深めてください。(文責 北川一夫)

